



磯本さん(後列左から二人目)、フィリップさん(前列右端)ら、scenycの主要スタッフたち。オフィスそばのロフトに住む人も。



当初何もなかった約4500sqftの空間に、自分たちで壁を立てて9部屋に分け、シャワーまでつけた。



スタッフの多くがミュージシャンでもあり、音楽レーベルも運営するので、オフィスには音楽スタジオも。

scenyc  
208 Fider Ave.  
(bet. 136th & 137th Sts.)  
TEL: 718-401-1301  
www.scenyc.com

近年サウスブロンクスにはアーティストが移り住み始め、ギャラリーなども増えてきているという。ウェブサイトや広告などのデザイン、音楽/アートイベントのプロデュースなどを行う「シニック」は、そんなムーブメントの一角を担う会社だ。「2005年に移ってきた当初は

何でブロンクス? って周りに言われましたと笑うのは、ディレクターのフィリップ・シエラさん。会社はアップアイストサイドにある美家の地下から始まり、より広いオフィスを求めてウィリアムズバーグなどを探したものの、家賃の高さから断念。マンハッタンから1駅の138ストリート駅そば、モットヘイブニアにオフィスを構えた。

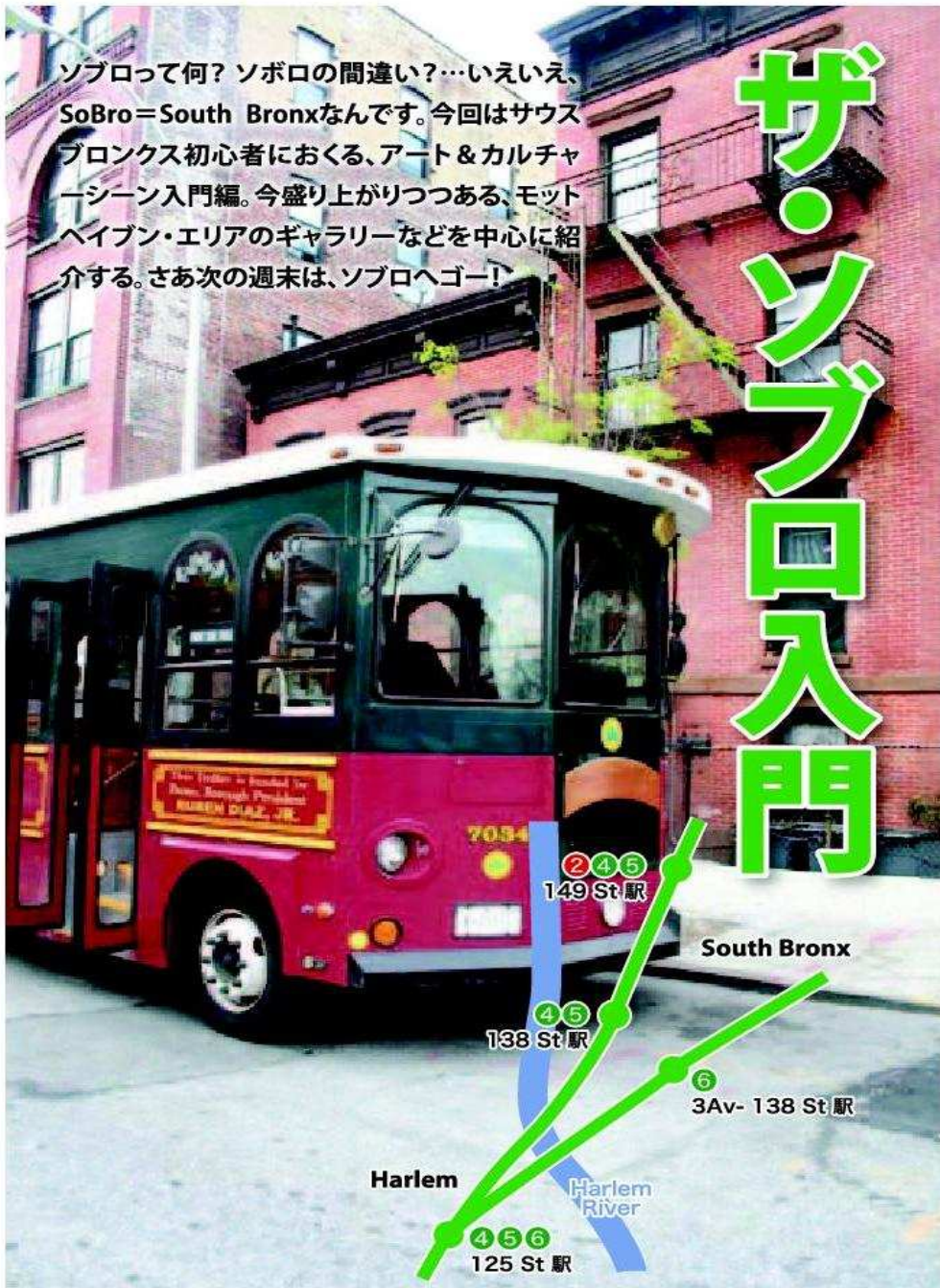
同社日本人スタッフの磯本亜希子さん曰く、「サウスブロンクスは今、『ソブロ(SoBro)』と呼ばれてどんどん開けてい

つていってます。元々黒人とラティーンだけのエリアだったのが、ここ2〜3年、白人の若いアーティストらしき人たちが目に見えて増えてきました。元々工場などが多い産業地域だったが、「以前のウィリアムズバーグのように」居住用ロフトなどが増え、変化の様子はニューヨークタイムズ紙でも取り上げられた。オフィス周辺にはプロジェクトの並ぶ一角もあるが、「歩く場所や時間帯に気をつけな」といけなのは、ニューヨークならどこも同じ。とりわけ危険を感じたことはありませんと磯本さん。「私はブルックリンのキャロルガーデンから通っています。よく遠いでしょ、と言

われますが、ここからユニオンスクエアまで45ラインで20分。実は意外と近いんです」と力説する。  
**魅力は人の温かさ**  
マンハッタンとの最大の違いは、フィリップさん曰く、「人のフレンドリーさ。移ってきてすぐに、地元消防署の人からギャラリー関係者まで、知り合いができたという。コミュニティが小さくてみんなどこかでつながっていて、何かあったら助け合う。シニックでも、近くのガソリンスタンド(ー)に野外ステージを作ってライブをしたり、地元の人含む200人を動員した大晦日イベントを開いたり、地元アートコミュニティの活性化のため活動中だ。ソブロはまだ、隠された秘密の場所。良さは来ないと分からないです!」。

変わりゆくソブロ

ソブロ・カルチャーシーンの今



ソブロって何? ソボロの間違い?...いえいえ、SoBro=South Bronxなんです。今回はサウスブロンクス初心者におくる、アート&カルチャーシーン入門編。今盛り上がりつつある、モットヘイブニア・エリアのギャラリーなどを中心に紹介する。さあ次の週末は、ソブロへゴー!

ザ・ソブロ入門

COVER STORY

ソブロー・注目スポット巡り

④⑤・⑥ 138 St 駅周辺

彫刻家のリンダ・カニンガムさん、そして波出石(はでいし)光春さんが運営する**ブロンクスアートスペース**は、2008年にオープンしたギャラリー。「この辺りのアートコミュニティは、小さくてつながりが強いのが魅力。ここがその礎の一つになればと思っています」と波出石さん。「フレンドリーでリラックスした雰囲気の中、上質なアートを展示するのがモットーだ。」

4月中の毎週土曜日は、アート祭「コンバージョンズ」の会場となっている。「変わりゆくソブローの現代美術シーンの今を切り取る」というコンセプトの下、参加者は彫刻家や画家、映像アーティスト、ダンサーなどさまざま。ソブローでは、おしゃれなカフェもホールフーズもないハードコアな環境で、フルタイムの仕事とアート活動を苦勞して両立している人がほとんど。彼らの力になりたいし、何より自分が好きなので」と、主催者のメリッサ・カルデロンさん。外の人がブロンクスに繰り返し来るきっかけになれば、他区のアーティストの参加も広く

受け入れ、1日限りのイベントではなく、毎回異なる催しを1週ごとに行う、という形式を取っている。



次ぐファウンテンヘッドギャラ

リーは、先月オープンしたばかりのできたてホヤホヤ。「チェルシーなんて古い古い!今一番アツいのはソブロー」と話すオーナーのジェニー・アン・アルフィーリさんは、自身もアーティスト。「一人でいるよりもみんなが協力し合うことでより良いアート活動ができることを証明したい」と、チェルシーで18年間ギャラリーやイベント運営を行ってきた。そんなジェニーさんにとってもソブローの魅力とは、やはりコミュニティの懐の深さだ。「チェルシーのギャラリーシーンは、ただの社交場みたいになってしまった。それで新天地を探してここにたどり着いた時、初めは大丈夫かなって思ったけれど、住民たちのコミュニティを良くしようという心意気がたまたまない。大家たちの芸術への理解も

ありがたいわ。レントもまだ安いしね」とジェニーさん。「若い子たちに、チェルシーとかブランドを背負わなくてもアートを発信できるって知って欲しい」と熱く語る。



ギャラリーから3アベニューを

南下したところにあるレンガ造りの建物は**ブルックナー・バー&グリル**だ。店はレストラン、ギャラリー、ステージのあるライブスペースと三つに区切られており、ケバブやバーガーなどの料理やお酒は、どこでも楽しめる。ギャラリーとライブスペースを作ったのは3年ほど前。地元のアーティストたちと僕ら、どちらからともなく声が出てね」と話すのは、マネージャーのアミール・シャヤーンさん。ライブスペースでは、ハウスからロックまでオールジャンルのライブやフラインクショー、カラオケナイトなどを開催している。オープンマインドでカジュアルな雰囲気は、ソブローならではの。アーティストから警官まで、地元のさまざまな人たちが昼夜問わずにぎわう、モットーハイブキッてる人気スポットだ。



①「Conversions」オープニング・レセプションの様子。2004年のスタート当初、出展・出演者は約10人だったが、現在は40人以上に。  
②波出石さん(右)とメリッサさん。バックのモールドで作られたアートは、Blanka Amezkuazさんの作品。



③現在は、チェルシーやソブローのアーティスト計4人の彫刻、写真、絵画を展示。「良いアートは何でも大歓迎」とジェニーさん。  
④横たわる女性をモチーフにした自身の作品と、ジェニーさん。素材は主に鉄や布だ。「鉄なんかはゴミ処理場で調達するのよ」。



⑤音響と照明がばっちり整ったライブスペースで、カラオケナイト!  
⑥現役の暖炉もあるレストランスペース。  
⑦レンガの壁と道路に面した大きな窓からの光に、飾られた写真が映えるギャラリー。  
⑧「SCHNITZEL」(14ドル95セント)と「MOTT HAVEN MARGARITA」(10ドル)。

**①② BronxArtSpace**  
305 E. 140th St. (bet. 3rd & Alexander Aves.)  
TEL: 718-772-4961  
www.bronxartspace.com

**③④ The Fountainhead Gallery**  
2488 3rd Ave. (at 136th St.)  
TEL: 646-621-6092  
www.jeaninealfieri.com

**⑤~⑧ Bruckner Bar & Grill**  
1 Bruckner Blvd. (at 3rd Ave.)  
TEL: 718-665-2001  
www.brucknerbar.com

**ここもチェック!**  
**Sweetwater's**  
2576 3rd Ave. (at 139th St.)  
TEL: 718-292-9470 / www.sweetwatersbarandgrill.com

**CONVERSIONs** (4/3, 10, 17, 24)  
www.conversionsnyc.com  
※左記BronxArtSpaceにて。4/17、24は7pm+。  
内容は日替わり。入場無料。

**⑥~⑧ Bruckner Bar & Grill**  
「Bringing a Little SoHo to the SoBro」がコンセプトの、おしゃれなレストラン。ブロンクスのミュージシャンによる、ジャズやR&Bのライブもあり。

前ページのフィリップさん曰く、今特にアクティブなのは、149 St以南&アレクサンダーAv以西のエリア。その中の注目スポットを紹介!



2010年4月16日号 (No.553)

President / Publisher  
大西 仁 Hitoshi Onishi

Managing Editor  
井上知子 Tomoko Inoue

Editor  
笠間達磨 Tatsuma Kasama  
甲斐田雅子 Masako Kaida

Designer  
亀山由香 Yuka Kameyama  
吉田和恵 Kazue Yoshida

Sales Manager  
緋田雅之 Masayuki Hida

Sales  
外山真智子 Machiko Toyama  
安部かすみ Kasumi Abe  
岩崎仁美 Hitomi Iwasaki  
河村祐貴子 Yukiko Kawamura

Marketing Promotion  
清水紀之 Noriyuki Shimizu

Accounting  
鋳持雅代 Masayo Kemmochi

Accounting Assistant  
谷 直子 Naoko Tani

Executive Producer  
新谷哲士 Tetsuji Shintani

Trend Pot NY, LLC  
411 Lafayette St., 3rd Fl.  
New York, NY 10003-7032  
TEL: 212-431-9970  
TEL: 1-800-535-6863  
FAX: 212-431-9960  
www.ejapion.com  
info@trendpot.com

©2010 Weekly NY Japion  
本紙掲載の記事・写真の無断複製、複製、転載を禁じます。本紙に掲載された広告内容に関しましてはジャピオンは一切責任を負いません。  
記事提供：共同通信社

Weekly NY Japion は、トライステイトエリア (NY・NJ・CT) で毎週23,000部発行しています。一部レンタルビデオ店によるマンハッタン地区オフィスデリバリーでも入手できます。  
www.ejapion.comでもジャピオンの記事をご覧になれます。

## 体験! トロリーでアートスポット巡り



Bronx Council On The Artsでは、ソブプロのギャラリーなどを回る無料のバスツアー「Bronx Culture Trolley」を行っている。今回はこれに、記者Hが参加してみた。

出発点は、Longwood Art GalleryのあるHostos Community College前。いきなり満席で、立ち乗りも出るほどの盛況ぶりだ。乗客は家族連れ、デートらしきカップル、一人でカメラ片手に観光に来た人などさまざま。遊園地の汽車のようで、華やかに飾りつけられたバスは、乗るだけでワクワクする。ツアーガイドを務める同カウンシルのエレンさんは、「やほー、みんな元気? 質問があったら何でも聞いてね!」と笑顔でノリノリ。メロン味のキャンディーを乗客に配るも、自分で食べた後にもあまりにもマズイと回収するコミカルな場面も…。

今回の停車スポットはBronx Museum of the Arts, Gordon Parks Gallery, BronxArtSpaceなどで、それぞれ好きなところで下車できる。各スポット間の乗車時間は5~10分程度で、停車時間は各最大15分程度と短い。発車に間に合わなくても心配無用。バスは同じコースを3周するので、1時間後に来る次の便に乗ればOKなのだ。道中、大きな窓から見えるFranz Sigel Parkには緑が溢れ、人々が春の夕方を楽しんでいる。停車中には、道端の人から「トロリーが走ってる!」「本当にタダなの?」などと声がかかり、バスは街の熱い視線を独り占め。

最終スポットのBruckner Bar & Grillで下車した人たちは、行われていたカラオケナイトへまっしぐら。1回の乗車で、心ゆくまでソブプロのアートスポットが堪能できた!



### Bronx Culture Trolley

www.bronxarts.org/SouthBronxCulturalCorridor.asp  
毎月第1水曜日5:30pm-ほか、5/1、15、6/5の12pm-など不定期に土曜日も運行。停車スポットは5カ所前後で毎回異なる。無料。

## 行ってみよう! ハンツポイント

モットヘイブンを堪能したら、次は6ラインHunts Point Av駅そばのエリア、ハンツポイントへ足を伸ばしてみよう! 下記のようなスポットが要チェック。

### Bronx Academy of Arts & Dance

841 Barretto St., 2nd Fl. (bet. Garrison & Lafayette Aves.)  
TEL: 718-842-5223 / www.bronxacademyofartsanddance.org  
女性のダンサーや映画監督、ミュージシャンなどを紹介する「BAAD! ASS WOMEN FESTIVAL」などのイベントや、ダンス・演劇などの公演、ワークショップを開催。

### THE POINT

940 Garrison Ave. (at Barretto St.)  
TEL: 718-542-4139 / www.thepoint.org  
写真やダンスのクラスのほか、6/19には、魚などの衣装をした地元の人々が街を練り歩く第7回「Hunts Point Fish Parade & Summer Festival」を開催。



①若手からベテランまで、世界中のアーティストの作品を展示。読書会など、イベントも開催。



②Sean Paul Gallegosさんの作品。ナイキのスニーカーと発泡スチロール製のゾウの頭上にはブダガ。



③ジャズの生演奏はムード満点。月・土曜日には、カラオケナイトを開催。



④シグニチャーメニューの「Penne Alla Vodka with Shrimp」(15ドル95セント)と、「Giovanni Seafood」(24ドル95セント)。

①② Longwood Art Gallery @Hostos  
450 Grand Concourse (at 149th St.)  
TEL: 718-518-6728 / www.bronxarts.org/lag.asp

③④ G Bar  
579 Grand Concourse (at 150th St.)  
TEL: 718-402-6996 / www.gbarnyc.com

ここもチェック!  
Pregones Theater  
571-575 Walton Ave. (at 150th St.)  
TEL: 718-585-1202 / www.pregones.org  
フェルトリカン/ラティーン文化をベースにした、ミュージカルや演劇を随時上演。

② 駅近くのホストスコミュニティーカレッジ内には、現代美術に特化したロングウッドアートギャラリーがある。元々はソブプロの別の場所に70年代からあったという老舗ギャラリーで、2003年に現在の場所に移転した。ギャラリー内は3パートに分かれ、現在三つの展覧会が進行中。ブロンクスで活動する移民のインディーズ・デザイナーたちが作った帽子、またニューヨーク

市の社会・政治・経済的問題や、ブロンクスの住民と文化的多様性に着目したインスタレーション、映像や絵画などが展示されている。「ブロンクスは文化的にも多様で、昔から活発なアートシーンがありましたが、あまり知られていませんでした」と、このギャラリーを運営するブロンクス・カウンシル・オン・アートのエレン・ポランさん。ですが最近少しずつ認知されてきているの

またこの界限に行くなら、ぜひGバーに立ち寄ろう。火・木曜日にはジャズやボサノバなどの生演奏、水曜日にはオープンマイク、金曜日にはヒップホップやハウスなどのDJブレイがあり、トレンドディーで落ち着いた雰囲気の中、お酒を傾けながら音楽を楽しむ人々で賑わう。

## ②④⑤ 149 St 駅周辺

で、今後はギャラリーなどにももっと人が来て、ビジネスに発展していくといいですねと期待を語る。

系列のイタリア料理店・ジョバンニと店内がつながっており、伝統的なイタリアの家庭料理が食べられるのも魅力。メニューはパスタだけでなく30種類以上と豊富で、食材は毎日ハンツポイント・コーポレートイブ・マーケットで仕入れるという。マネージャーのアンジェロ・ジョバンニさん曰く、「近くにオフィスが多いので裁判官や弁護士、学校の先生、学生などいろんな人が集まります。ここはいわばコミュニティーの中心地ですね。これからの季節は、テラス席が気持ちいい。」